# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 5 月 25 日現在

機関番号:32658

研究種目:基盤研究(C) 研究期間:2008~2010 課題番号:20500559

研究課題名(和文) 高地肺水腫発症に対する遺伝・環境的素因の相互作用に関する研究

研究課題名(英文) Study of interaction between genetic and environmental factors for

high-altitude pulmonary edema.

#### 研究代表者

樫村 修生(KASHIMURA Osamu)

東京農業大学・国際食料情報学部・教授

研究者番号: 40161020

研究成果の概要(和文): 高地肺水腫が発症しにくい F344 としやすい WKY を用い,慢性および急性低酸素曝露による肺血管・体血管における eNOS タンパク質発現 ACE 受容体タンパク発現, HIF1 タンパク質発現の比較をし,高地肺水腫発症との関連性を検証した.肺血管透過係数は,WKY 群に比較して F344 群で有意に低値を示した.遺伝的に高地肺水腫が発症しにくいとされる F344 ラットでは,慢性低酸素曝露時,低酸素性肺血管収縮が抑制され,右心室肥大や肺動脈の肥厚が小さく,肺動脈内皮型一酸化窒素合成酵素活性ならびにタンパク質発現が高かった.高地肺水腫の発症は,低酸素に対する肺血管の感受性に依存し,遺伝的な素因が関与することが明らかとなった.

研究成果の概要 (英文): We used F344 which high-altitude pulmonary edema was hard to develop and WKY which it was easy compared eNOS, ACE receptor and HIF1 protein expressions, in the pulmonary and systemic arteries by chronic and acute exposures to hypoxia, and inspected association with the high-altitude pulmonary edema onset. The coefficients of pulmonary vascular filtration were significantly shown lower in F344 group in comparison with WKY group. With the F344 rats, hypoxic pulmonary vasoconstriction was inhibited after the chronic exposure to hypoxia, and right ventricular hypertrophy and pulmonary hyperplasia were small, and the endothelial nitric oxide synthase activities and protein expressions in pulmonary arteries were high. The onsets of the high-altitude pulmonary edema depended on pulmonary vascular sensitivities to hypoxia, and the contribution of genetic factors became clear.

## 交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合 計
2008 年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野:運動生理学

科研費の分科・細目:健康スポーツ科学・スポーツ科学

キーワード:スポーツ環境学・肺血管

1.研究開始当初の背景 高地肺水腫モデルラットを用いた ACE, HIF1 および eNOS 遺伝子の発現解析,低酸素トレーニングおよび慢性低酸素曝露によ

る ACE HIF1 および eNOS 遺伝子の発現変化, この二つの解明により,高地肺水腫の発症に 対する遺伝子および環境の素因の関与を検 討する.

#### 2.研究の目的

高地肺水腫が発症しにくい F344 としやす い WKY を用い,慢性および急性低酸素曝露に よる肺血管・体血管における eNOS タンパク 質発現,ACE 受容体タンパク発現,HIF1 タ ンパク質発現の比較をし、肺血管拡張・収縮 反応と高地肺水腫発症の関連性を検証した.

#### 3.研究の方法

実験動物には, それぞれ 10 週齢雄 WKY と F344 ラット各 11 匹用いた. 各系統ラットを 常酸素曝露群(5匹)と慢性低酸素曝露群(6 匹)に分けた.慢性低酸素曝露条件は,常圧 低酸素室を用い 11 日間で酸素濃度 10%まで 漸次低下させた.

飼育終了後,2つのカテーテルをそれぞ れ頚静脈から肺動脈へ,総頸動脈から大動脈 へ挿入手術し ,肺動脈圧および体血圧測定を した.その際, L-NMMA(eNOS 阻害剤)投与によ る肺動脈および体血圧の変化も測定した.そ の後,麻酔下脱血し,採血,心臓,肺動脈お よび胸部大動脈を摘出した.また,肺動脈と 胸部大動脈は Western blot 法を用いて *e*NOS タンパク質発現, ACE 受容体タンパク質発現 および HIF1 タンパク質発現を解析した.

## 4. 研究成果

慢性低酸素曝露により WKY 群は ,F344 群よ リ有意に右心室肥大の程度が大きかった(WH 群,Fig.1).血管内皮細胞依存型一酸化窒素 合成酵素阻害剤投与による肺動脈圧上昇は, FH 群 (F344 における慢性低酸素曝露群)で 大きかった(Fig.2).慢性低酸素曝露による 肺動脈の NOS 活性は ,FH 群で有意に大きかっ たが,胸部大動脈では群間に差がなかった (Fig.3).慢性低酸素曝露による肺動脈 eNOS 合成酵素タンパク質発現は,FH 群が他群より 有意に大きかったが(Fig.4),胸部大動脈の 発現は,群間に差がなかった(Fig.5).

このような結果から,遺伝的に高地肺水腫 が発症しにくいとされる F344 ラットでは, 慢性的に低酸素曝露刺激を与えた場合,低位 酸素性肺血管収縮が抑制され,右心室肥大や 肺動脈の肥厚が小さく,特に肺動脈内皮型一 酸化窒素合成酵素活性ならびにタンパク質 発現が高く,低酸素に対する遺伝的感受性に 差異がみられることがわかった.さらに,高 地肺水腫に指標となる肺血管透過係数は,慢 性低酸素曝露前後とも,WKY 群に比較して F344 群で有意に低値を示し ,高地肺水腫の発 症が抑制されることが確認された.つまり, 高地肺水腫の発症(高山病の罹患)は,低酸

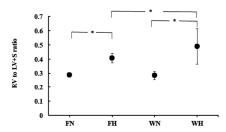


Fig. 1 Comparison between right ventricular hypertrophies in Fisher 344 (F344) rats and Wistar Kyoto (WKY) rats after chronic exposure of normoxia and hypoxia.

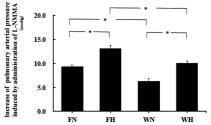
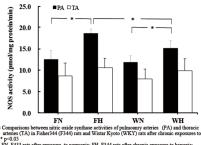
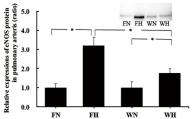


Fig. 2 Compariso (WKY) rats

\*P=0,0.0
\*F, Fischer rats after exposure to normoxia; FH, Fischer rats after chronic exposure to hypoxia WN, WKY rats after exposure to normoxia; WH, WKY rats after chronic exposure to hypoxia



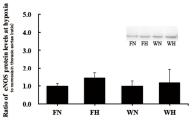
\*p=0.05 FN, F433 rats after exposure to normoxia; FH, F344 rats after chronic exposure to hypoxia; WN. WKY rats after exposure to normoxia; WH, WKY rats after chronic exposure to hypoxia



\*p=0.09.

Ratios are constructed using individual optical density average in same strain groups at exposure to normoxia (value are 1).

FN, F344 rats after exposure to normoxia; FH, F344 rats after chronic exposure to hypoxia WN, WKY rats after exposure to bormoxia; WH, WKY rats after chronic exposure to hypoxia WN, WKY rats after chronic exposure to hypoxia which was a supplementation of the chronic exposure to hypoxia which was a suppl



oxia (value are 1).

素に対する肺血管の感受性に依存し,遺伝的 な素因が関与することが明らかとなった.さ らに,この遺伝的な素因(低酸素性肺血管収 縮など)は,慢性低酸素の刺激によりあきら

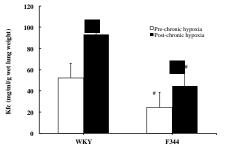


Fig.6 Pulmonary filtration coefficients (Kfc) after normoxic and chronic hypoxic conditions in Fischer 344 and Wistar Kyoto rats.

\*p=0.05 \*x. Normoxic condition in same strain rats. \*p=0.05 \*x. F344 rats at same condition.

かに影響を及ぼすことから,遺伝的素因も環境的(後天的)影響をうけることが確認された.この研究から,今後,高所登山に対する高地肺水腫の発症,NOS遺伝子が関与を検討することで,予防の一助となることが期待される.

なお,現在,ACE 受容体および HIF1 タンパク質発現については現在解析中であり,解析後,論文の執筆に移る予定である.

#### 5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

## [雑誌論文](計12件)

酒井秋男,金子佐和,<u>樫村修生</u>,高地適応と右心室肥大,日本生気象学雑誌,査 読有,47(2),2010,69-76..

Cuii S, Shibamoto T, Zhang W, Kurata Y, Kashimura O, Miyamae S, Exercise training attenuates anaphylactic venoconstriction in rat perfused liver, but does not affect anaphylactic hypotension in consciouos rats, Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology, 查読有, 37, 2010, 889-893.

<u>桜井智野風,樫村修生</u>,喜多清,柴田茂喜,青木健,下井岳,伊藤雅夫,岩崎賢一,短時間の過重力負荷が骨格筋に及ぼす影響,宇宙航空環境医学雑誌,査読有,47(1),2010,3-9.

南和広,寄本明,<u>樫村修生</u>運動時生体 負担に低圧低酸素環境が及ぼす影響,ウ オーキング研究,査読有,13,2009, 181-185.

柏木朋也,<u>桜井智野風</u>,鈴木健太,<u>樫村</u> <u>修生</u>,ラットにおける高所滞在・平地ト レーニングが肺循環動態および肺動脈の 血管内皮型合成酵素タンパク質発現に与 える影響,体力科学,査読有,58(2),2009, 285-294.

<u>樫村修生</u>,島崎あかね,高橋弘彦,伊藤孝,長期持久的運動トレーニングがノルエピネフリン誘発性肺動脈圧上昇に及ぼす影響,体力・栄養・免疫学雑誌,査読

有,18(1),2008,39-44.

柏木朋也,南和広,<u>樫村修生</u>,ラットにおける高所滞在・平地トレーニングが肺循環動態に与える影響,日本生気象学雑誌,査読有,45,2008,85-93.

南和広,<u>樫村修生</u>,ラットにおける低酸素性肺血管収縮に流量および粘性が与える影響,日本生気象学雑誌,査読有,44(4),2008,89-96.

Minami K , <u>Kashimura 0</u>, Effects of nitric oxide induced by flow and viscosity in the pulmonary artery, Japanese Journal of Clinical Physiology, 查読有, 38(2),2008, 31-37.

南和広,酒井秋男,<u>樫村修生</u>,短期間持久的トレーニングが流量および粘性に対するラット肺動脈圧変化に与える影響, 日本臨床生理学雑誌,査読有,38(2),2008,131-139.

<u>樫村修生</u>,酒井秋男,低酸素換気と肺流量増加による肺血管透過性亢進,日本臨床生理学雑誌,査読有,38(1),2008,47-53.

<u>樫村修生</u>,菊地潤,高橋弘彦,伊藤孝, 大学女子陸上長距離選手における運動時 の発汗がヘモグロビン濃度に与える影響, 学校保健研究,査読有,50(3), 2008, 196-202.

## 〔学会発表〕(計7件)

<u>桜井智野風</u>,柏木朋也,鈴木健太,菊地順,島﨑あかね,南和広,<u>樫村修生</u>,低酸素曝露による骨格筋内 eNOS タンパク発現はラット系統間により異なるか,第64回日本体力医学会 2010年9月17日,千葉商科大学.

柏木朋也,<u>桜井智野風,</u>鈴木健太,菊地潤,島﨑あかね,南和広,<u>樫村修生,</u>異なる系統ラットにおける肺循環動態の比較,第64回日本体力医学会,2010年9月17日,千葉商科大学.

原健太,鈴木英悟,<u>樫村修生</u>,標高2000m相当の低酸素環境下における持久的トレーニングが呼吸循環機能に及ぼす影響,第20回体力・栄養・免疫学会,2010年8月28日,弘前大学.

柏木朋也,<u>桜井智野風</u>,南和広,鈴木健太,<u>樫村修生</u>,第 63 回日本体力医学会,高所滞在・平地トレーニングが肺循環動態および eNOS タンパク質発現に与える影響,2008年9月19日,別府.

桜井智野風,鈴木健太,南和広,柏木朋

也,狩野豊,<u>樫村修生</u>,第63回日本体力 医学会,損傷骨格筋におけるNOと発痛関 連物質の関連,2008年9月19日,別府. <u>桜井智野風</u>,狩野豊,<u>樫村修生</u>,第63回 日本体力医学会,損傷骨格筋における発 痛関連物質動態,第10回日本体力医学会 北海道地方会,2008年4月20日.

#### 6.研究組織

# (1)研究代表者

樫村 修生 (KASHIMURA Osamu) 東京農業大学・国際食料情報学部・教授 研究者番号:40161020

# (2)研究分担者

桜井 智野風 (SAKURAI Tomonobu) 東京農業大学・生物産業学部・准教授 研究者番号:30235220

# (3)連携研究者

無